

開講科目名／Course	身体安楽援助論	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名／Instructor	秦 さと子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	実践で遭遇する機会の多い身体症状とその発生機序を理解し、症状が日常生活に与える影響を考察したうえで、対象に必要な援助を判断する力を養うことを目的とする。対象に生じている身体症状が与える影響を理解したうえで、安楽を阻害している症状の軽減や日常生活を安楽に過ごすために必要な支援法を思考し判断する。	
到達目標	1. 対象に生じている症状の発生機序を述べることができる。 2. 対象に生じている症状が日常生活に与える影響を根拠と共に述べることができる。 3. 症状に応じた必要な援助法を根拠と共に説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 呼吸困難 02. 易感染、発熱 03. 食欲低下（食事摂取量不足） 04. 下痢・便秘 05. 易疲労（倦怠感、活動耐性の低下） 06. 貧血 07. 事例検討 08. 転倒リスク	
その他の授業の工夫	・学習する項目は、実践で遭遇しやすい身体症状を選出している。 ・ワークシートを用いて、学習した内容を活用して必要な支援法について思考し判断する力を培う。	
時間外学修	・授業内容を理解するためには授業予定の範囲の予習を推奨する。(4h) ・授業内容の理解の促進・定着を図るために復習を推奨する。(18h)	
評価方法と評価割合	・筆記試験（80％）、授業態度（20％）で総合的に評価する。 ・授業態度は、授業参加度を評価する。欠席、遅刻は減点対象とする。20分の遅れを遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・筆記試験は1回実施する。	
テキスト	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント（第5版）（Gakken）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で遭遇しやすい症状について、患者が感じている不快感や苦痛を具体例を挙げて解説する。	